



景ノ側北所留停車電園遊屋芦

## 芦屋遊園地

(明治40年代)

現在の芦屋警察署あたりを南から見た風景と考えられます。

芦屋遊園地は、明治40（1907）年に精道村が芦屋川東岸に開園しました。

芦屋遊園地では、松林の散策や松露<sup>しょうろ</sup>と呼ばれるキノコ採りが楽しまれ、阪神間の名所として広く知られました。



景の獲漁岸海屋芦

## 芦屋の地曳網漁 (大正～昭和初期)

明治の終わりごろから芦屋の浜辺は別荘地・名所として発展しましたが、それ以前よりイワシ漁を中心とした地曳網漁が行われていました。

芦屋の浜辺で獲れたイワシは「手を噛むほど新鮮」だったことから、魚売りが「ててかむイワシいらんかえ」と掛け声を挙げながらイワシを売り歩く風景がみられました。

## 阪神芦屋駅にあった貨物専用の引き込み線 (大正10年代)



景ノ側北所留停車電園遊屋芦 (所名屋芦)

現在の阪神芦屋駅の東側踏切あたりを南西方向から見た風景です。左下には阪神芦屋駅のホームが、右下には梅田方面行きの電車が写っており、右上には甲山も見えます。右手に見える大きな建物（現在のパントリー芦屋店の場所）は大正3（1914）年に建てられた芦屋郵便局です。



また、阪神芦屋駅ホームの奥（北側）にも電車が停車しています。古い地図と見比べると、当時、ホームの北側には引き込み線があり、そこに電車が停まっているようです。当時の阪神電車は貨物輸送も行っており、この場所で荷物の積み降ろしをしていたと考えられます。引き込み線の北側には運送店がありました。

◀『精道村明細図』の阪神芦屋駅部分

### 『精道村のあゆみ 一郊外住宅地・芦屋の幕開け』を刊行

芦屋市教育委員会では、令和元年（平成31年）に精道村が発足130年を迎えたことを機に、精道村に関する資料・情報の収集や、当時のモノクロ写真・絵葉書のカラー化などを実施しました。今回紹介したカラー化絵葉書もその一部です。

収集した資料や情報をもとにパンフレット『精道村のあゆみ一郊外住宅地・芦屋の幕開け』を刊行しました。パンフレットは、生涯学習課の窓口で無料配布しており、市ホームページにもPDFデータを掲載していますのでぜひご覧ください。



問い合わせ 生涯学習課 ☎38-2115

